令和７年度 堺市障害者自立支援協議会
第２回 強度行動障害支援部会

開催日時：令和７年 10 月 16 日（木）10:00～12:00
場　　所：堺市役所本館６階 会議室Ｂ

次 第

10:00～11:15

1　強度行動障害支援体制整備事業

(1) 令和７年度上半期の経過報告　資料１

(2) 実践報告会の開催

11:15～11:20

2　強度行動障害に関する統計資料の共有　資料２

11:20～11:55

3　地域啓発等 今後について　資料３

実践報告会以外の取組

4　その他

令和７年度第３回強度行動障害支援部会 開催日程
令和７年 12 月 25 日（木）10：00～
場所 堺市役所本館地下１階 多目的室

資料1

堺市「強度行動障害支援体制整備事業」

令和7年度
第2回自立支援協議会
強度行動障害支援部会

令和7年10月16日

令和7年度スケジュール

令和7年度スケジュール　堺市強度行動障害支援体制整備事業

	回数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
社会福祉法人 コスモス	コンサル9回	4/23 13:00-15:00 @北部作業所 （1回分）	5/27（火） ＡＭ：評価 ＰＭ：事例検討 （2回分）	コロナ流行 のため延期 ↓ 10/2、11/10	7/29（火） 13:00-15:00 事例検討 （１回分）	8/28（木） 13:00-15:00 事例検討 （１回分）		10/2 10-12 北部 （1回分） 10/30（木） 10-12、13-15 ＡＭ：事例検討 ＰＭ：OJT（2回分）	11/10（月） 10-12 北部にて しののめ事例検討 （1回分）					確定
	実地研修 10日/人 （延べ人数）	候補 4/14 表出コンサル1名 4/25 ASDコンサル1名 計2名	5/24,25 とれとれ研修 場所：もとまち ２日間２名参加 （延べ4人参加）				9/8 表出コンサル ２名 9/19 ASDコンサル ２名 その他：現場実習 計４名							確定
	実践報告1回 （法人向け）									12/11（木） 18-20 実践報告会 1回分				確定
	実践報告1回 （地域向け）											2/14（土） 13:30-16:30 西文化会館 1回分		確定
社会福祉法人 障友会	コンサル9回		5/30（金） 16-19 （1回分）	6/20（金） 16-19 （1回分）	7/18（金） 16-19 （1回分）	8/29（金） 16-19 （1回分）		10/17（金） 16-19 堺みなみ （1回分）	11/21（金） 16-19 （１回分）	12/19（金） 14:30-16:30 （１回分）	1/16（金） 16-19 （１回分）	2/20（金） 16-19 （１回分）		確定
	実地研修 10日/人 （延べ人数）						9/19 レジデンスなさはら 2名参加	10/25、26 とれとれ研修 場所：もとまち ２日間２名参加 （計4人参加）	11/10 なさはら　2名 11/28 なさはら　2名 （計4名参加）					確定
	実践報告1回 （法人向け）									12/19（金） 17:30-19:00 実践報告会 1回分				確定
	実践報告1回 （地域向け）											2/14（土） 13:30-16:30 西文化会館 1回分		確定
社会福祉法人 こころの窓	コンサル9回		5/21（水） 事例検討とOJT （１回分）	6/16（月） 事例検討と シュミレーション （1回分）		8/18（月） 事例検討 （1回分）	9/29（月） AM　事例検討 PM　OJT （2回分）		11/17（月） AM　事例検討 PM　OJT （2回分）	12/19（金） 10:15-12:15 （1回分）		2/16（月） 10:15-12:15 （1回分）		確定
	実地研修 10日/人 （延べ人数）				7/22 事例検討 （2名） 7/14 表出コンサル （2名） 7/25 ASDコンサル （2名） （延べ6名参加）			10/25,26　4人 とれとれ研修 場所：もとまち ２日間２名参加 （延べ4人参加）						確定
	実践報告1回 （法人向け）								11/21 17:15-18:15 青い鳥 実践報告会					確定
	実践報告1回 （地域向け）											2/14（土） 13:30-16:30 西文化会館 1回分		確定
自立支援協議会 強度行動障害支援部会				第1回 自立支援協議会 6月3日（火） 10:00～ 堺市役所				第2回 自立支援協議会 10月16日（木） 10:00～ 堺市役所		第3回 自立支援協議会 12月25日（木） 10:00～ 堺市役所			第４回 自立支援協議会 3月5日（木） 10:00～ 堺市役所	

評価項目

評価項目１

「標準的な支援状況表」

①アセスメント（障害特性）
②アセスメント（障害特性以外の行動観察）
③支援手順書
④個別支援計画
⑤受容的支援
⑥表出的支援
⑦記録
⑧チームアプローチ
⑨その他（事業所内連携）
⑩その他（事業所外連携）
※医療面

標準的な支援実施状況表　　事業所名：

		項目	1	2	3	4	5	6
①	A	**アセスメント（障害特性）**	活用していない	特定利用者の障害特性の把握をし、アセスメントシートに記載している	特定利用者の障害特性を整理・分析している。もしくは行動の背景として活用している。 例：氷山モデルを使って行動の背景を考えている等	普段の支援から障害特性を意識し、障害特性のアセスメントシートを3か月に１回は更新している	複数の利用者に①－１、①－2,①－3アセスメントが実施されている	①-1,①－２,①-3が事業所内で浸透し活用されている
②		**アセスメント（障害特性以外の行動観察）**	活用していない	特定利用者の行動の要因を把握をしている。 例）睡眠不足の次の日は不調。月経の前は不調など	特定利用者の行動の要因を把握をし、整理、分析をしている。	普段の支援から行動観察を意識し、アセスメントシートを3か月に１回は更新している	複数の利用者に②－１、②－2,②－3アセスメントが実施されている	②-1,②－２,②-3が事業所内で浸透し活用されている
③	P	**支援手順書**	活用していない	特定利用者の１つの場面で活用されている	特定利用者の２つ以上の場面で活用されている	活用と改定が定期的に実施されている	複数の利用者に支援手順書が活用されている	支援手順書を活用し事業所内で統一した支援が実施できている
④	P	**個別支援計画書**	活用していない	特定利用者の１つの場面で活用されている	特定利用者の２つ以上の場面で活用されている	活用と改定が定期的に実施されている	複数の利用者に活用されている	活用し事業所内で統一した支援が実施できている
⑤	D	**受容的支援**	活用していない	特定利用者に構造化の手法を持ち入れられ始めている	特定利用者に構造化のアイディアが活用されている	特定ご利用者の構造化が必要に応じて更新されている	複数の利用者に構造化が活用されている	構造化のアイディアが事業所内で浸透し活用されている
⑥	D	**表出的支援**	表出的支援が必要なご利用者に取り入れられていない	特定利用者に対して意思表出支援を開始している	特定利用者の意思表出の場面・幅がD-2より広がっている	特定利用者以外のケースでも表出的支援を開始している	特定利用者以外のケースでも意思表出の場面・幅がD-3より広がっている	表出的支援が必要な全ご利用者に取り入れている
⑦	C	**記録**	活用していない	運営指導時に必要な記録のみとっている	行動観察記録（スキャッタープロット等）が活用されている	目的に合わせた記録の活用がされている	複数の記録が活用されている	事業所内で記録の活用、分析が浸透している
⑧	働く環境	**チームアプローチ**	理念・基本的価値観の共有 職員間のコミュニケーション（会議、ランチ会等） 人材育成 職員のケア（ストレスマネジメント等） 上記項目で具体的な取り組みがない	理念・基本的価値観の共有 職員間のコミュニケーション（会議、ランチ会等） 人材育成 職員のケア（ストレスマネジメント等） 上記項目で１つ以上具体的な取り組みをしている	理念・基本的価値観の共有 職員間のコミュニケーション（会議、ランチ会等） 人材育成 職員のケア（ストレスマネジメント等） 上記項目で２つ以上具体的な取り組みをしている	理念・基本的価値観の共有 職員間のコミュニケーション（会議、ランチ会等） 人材育成 職員のケア（ストレスマネジメント等） 上記項目で３つ以上具体的な取り組みをしている	理念・基本的価値観の共有 職員間のコミュニケーション（会議、ランチ会等） 人材育成 職員のケア（ストレスマネジメント等） 上記項目で4つ以上で具体的な取り組みをしている	理念・基本的価値観の共有 職員間のコミュニケーション（会議、ランチ会等） 人材育成 職員のケア（ストレスマネジメント等） 上記項目のすべての項目もしくはそれら以上の取り組みを行っている
			具体的な取り組み	具体的な取り組み	具体的な取り組み	具体的な取り組み	具体的な取り組み	具体的な取り組み
⑨	その他	**【事業所内連携】 管理者との連携 サビ管、児発管との連携 現場職員との連携**	連携していない	連携をややしている	連携をしている	連携をよくしている		
⑨	その他	**【事業所外連携】 相談支援専門員との連携 地域・関係機関との連携 家族との連携**	連携していない	連携をややしている	連携をしている	連携をよくしている		
⑩	医療面	**・身体的外面的（皮膚や外科など） ・身体的内面的（内科、整形、耳鼻科、婦人科等） ・精神的（精神科）**	【自由記述】					

評価項目２

「職員アンケート」

①個別支援計画
②担当利用者の特性理解
③行動障がいや自閉症の理解
④特性に基づく環境調整等
⑤自己学習
⑥職員間のコミュニケーション
⑦法人の理念やビジョンについて
⑧支援を行う上での満足度

１～6で評価

令和６年度　堺市強度行動障害支援体制整備事業　職員アンケート

全職員用
（コアメンバーを含む）

令和　　６ 年　　月　　日

勤続年数　　年

事業所名

提供サービス

内容	行動		※	程度
個別支援計画	１　立てている		１	個別支援計画を意識して支援したことがない。
			２	個別支援計画の達成を意識して、担当者が主に支援を行っている。
			３	個別支援計画の達成を担当者が意識して行っており、全職員（棟やユニットでも可）に周知している。
			４	個別支援計画の達成を担当者を含めた複数名が意識して実践している。
			５	個別支援計画の達成を全職員※（棟orユニットでも可）が意識して実践している。
			６	個別支援計画を全職員※（棟orユニットでも可）で検討・作成し、意識して実践している。
担当利用者の特性について ※特性＝得意なこと、好きなこと、苦手なこと、嫌いなこと等	１　理解していない		１	必要性がない。
			２	理解したいが理解するのが難しい。
	２　理解している		３	なんとなく日々の行動から特性を理解しているが、適切に理解できているかどうかわからない。
			４	日々の行動のアセスメントやデータ等の根拠に基づき理解している。
			５	日々の行動のアセスメントやデータ等の根拠に基づき理解し、支援を組み立てている。
			６	日々の行動のアセスメントやデータ等の根拠に基づき理解し、支援を組み立てチームで共有している。
行動障がいや、自閉症の理解	１　理解していない		１	必要性がない。
			２	理解したいが理解するのが難しい。
	２　理解している		３	研修等で学びなんとなく理解した。
			４	研修等で概ね理解している。実践にはもう少し時間がかかる。
			５	研修等で概ね理解し、利用者支援を実践している。
			６	研修等で概ね理解し、チーム全体で利用者支援を実践している。
特性に基づいた環境調整等	１　実施していない		１	必要性がない。
			２	環境調整の方法を知らない。
	２　実施している		３	なんとなく理解し、実践している。
			４	本人の特性に基づき環境調整を行っている。
			５	本人の特性に基づき環境調整を行っており、必要に応じ見直し、改善している。
			６	本人の特性に基づき環境調整を行い、必要に応じ見直し改善を行い、マニュアル等を作成している。
自己学習	１　していない		１	必要性がない。
			２	したいがする余裕や時間がない。
	２　している		３	職場から指名される研修に参加している。
			４	職場から指名される研修以外にも興味がある研修案内等があれば自ら希望し参加している。
			５	職場から指名される研修も含め、学んできた業務に必要な研修を他の職員に伝達している。
			６	研修（内部研修含む）で学んだことを、職場内などで講師となり研修を実施し伝達している。
職員間のコミュニケーション（相談等）	１　していない。		１	相談することがない。
			２	相談したいが、多忙等の理由で相談することが難しい。
	２　している		３	困ったことなどを仲の良い職員と相談し解決している。
			４	困ったことなどを、全職員※（棟、ユニット）で4週間に1回程度は会議等で相談できる環境がある。
			５	困ったことなどを、会議等で相談でき、さらにその都度チームに相談できる環境がある。
			６	困ったことなどを、会議等でその都度チームに相談できる環境があり、他事業所とも共有している。
法人の理念やビジョンについて	１　知らない		１	理念やビジョンがあるかどうかもしらない。
			２	理念やビジョンを教えてもらったが、覚えていない。
	２　知っている。		３	理念やビジョンがあるということを知っているけど、知っている程度。
			４	理念やビジョンを職員会議等で定期的に確認し知っている。
			５	理念やビジョンに基づいて、支援を実践している。意識して実践している。
			６	理念やビジョンについて、意識して実践し、誰にでも説明できる。
支援を行う上での満足度	１　負担に感じる		１	支援の負担感は大きく、かなり悩んで疲れている。
			２	支援の負担感は大きく、悩みも多いが、何とか頑張りたいと思っている。
	２　満足		３	支援の負担感は軽減してきており、前向きになってきている。
			４	支援が楽しく感じられるようになってきている。
			５	支援が楽しく感じている。もっと様々なことを学びたい。
			６	支援が楽しい。現在のチームで様々なことを学び、周囲に伝えていきたい。

※全職員－宿直などの職員、休日職員等にも書面等でわかりやすく共有しているものも含む。

評価項目３

「利用者行動評価」

①表出コミュニケーション
②受容コミュニケーション
③動き
④不安定な行動
⑤自傷
⑥他害・破損
⑦不適切な行動
⑧大声・奇声
⑨突発的な行動
⑩異食
⑪過食・多飲水・反すう
⑫確認行動
⑬こだわり
⑭睡眠
⑮排泄
⑯その他の行動
０点～２点の32点満点

堺市強度行動障害支援体制整備事業　対象利用者行動評価

法人名　（　　）　事業所名　（　　）　対象ご利用者名　（　　）

有無 あれば○	行動	頻度による評価			行動の程度などの特記事項（支援前の状況）	支援前評価点数	支援中間評価点数	支援後評価点数	支援前と支援後の差異（定量）支援後の特記事項（定性）
		０点	１点	２点					
	【表出コミュニケーション】本人独自の表現方法を用いた意思表示	独自の方法によらず意思表示できる	時々、独自の方法でないと意思表示できないことがある	常時独自の方法での意思表示 意思表示できない					
	【受容のコミュニケーション】言語以外のコミュニケーション手段を用いた説明の理解	日常生活において言葉以外の独自の方法（ジェスチャー、絵カード等）を用いなくても説明の理解ができる	時々、独自の方法でないと説明の理解ができないことがある	常に言葉以外の方法でないと説明理解ができない。言葉以外の方法を用いても説明の理解ができない					
	【動き】多動または行動停止	まれにある。または、月に1回程度	1週間に1回程度	毎日（1日　　回）					
	【不安定な行動】パニックや不安定な行動	まれにある。または、月に1回程度	1週間に1回程度	毎日（1日　　回）					
	【自傷】自分の体を叩いたり傷つけたりすること	まれにある。または、月に1回程度	1週間に1回程度	毎日（1日　　回）					
	【他害・破壊】叩いたり蹴ったり、器物を壊したりなどの行為	まれにある。または、月に1回程度	1週間に1回程度	毎日（1日　　回）					
	【不適切な行為】他人に突然抱きついたり、断りもなく物を持ってくる行動	まれにある。または、月に1回程度	1週間に1回程度	毎日（1日　　回）					
	【大声・奇声】環境の変化により突発的に通常と違う声を出すこと	まれにある。または、月に1回程度	1週間に1回程度	毎日（1日　　回）					
	【突発的行動】突然走っていなくなるような突発的な行動	まれにある。または、月に1回程度	1週間に1回程度	毎日（1日　　回）					
	【異食】食べれないものを食べること	まれにある。または、月に1回程度	1週間に1回程度	毎日（1日　　回）					
	【過食・多飲水・反すう】過食、多飲水、反すう等の食べること飲むことに関する行動	まれにある。または、月に1回程度	1週間に1回程度	毎日（1日　　回）					
	【確認行動】気になることなど、何度も同じ確認をする行動	まれにある。または、月に1回程度	1週間に1回程度	毎日（1日　　回）					
	【こだわり】物や人に対する固執、執着が激しい行動	まれにある。または、月に1回程度	1週間に1回程度	毎日（1日　　回）					
	【睡眠】睡眠がとれなくなったり、昼夜逆転などの睡眠に関すること	まれにある。または、月に1回程度	1週間に1回程度	毎日（1日の睡眠時間）					
	【排泄に関して】頻回にトイレに行くなど、排尿、排泄に関しての不適切な行動	まれにある。または、月に1回程度	1週間に1回程度	毎日（1日の睡眠時間）					
	その他、本人や周囲が困っている行動がある【行動のタイトル記入】	まれにある。または、月に1回程度	1週間に1回程度	毎日（1日の睡眠時間）					
			・支援前と支援後の総合的な変化 支援後「出来ることが増えた」「笑顔が増えた」など ・支援前、中間、支援後の合計点数			０	０	０	

参加法人の進捗状況

社会福祉法人　コスモス

令和7年度実施計画（社会福祉法人コスモス）

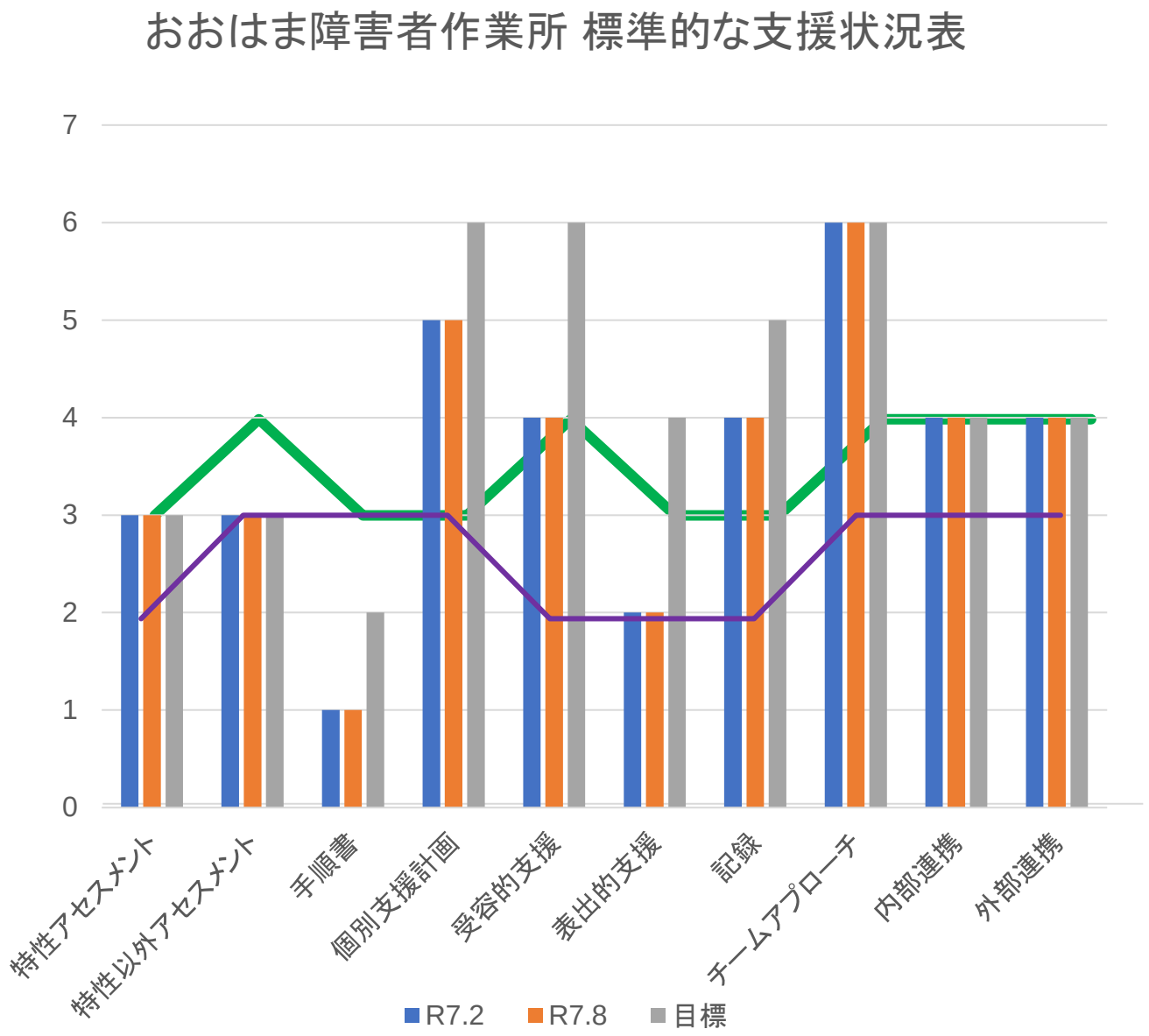
目標設定	
今年度目標	・利用者の直接支援が出来ている ・コアメンバーがアセスメントができるようになり、支援の組み立てができるようになる。 ・コアメンバーが支援の振り返りから組み立てができる（PDCAサイクルをまわす） ・チーム支援を展開できる
最終目標	・強度行動障がいのある方の支援おいて、堺市内の事業所の核となり、支援をリードしている。 ・強度行動障がいのある方を対象としたグループホームの支援を行うなど地域生活支援を展開している。

令和７年度予定プログラムと評価

プログラム	実施計画	令和7年度8月評価	令和7年度2月評価
訪問コンサルテーション	・4/23、5/27（2回分）、7/29、8/28、10/2 10/30（2回分）、11/2 計9回 （担当：伊名岡、辻本）	・コロナによる延期はあったが、おおむね予定通り実施できている。訪問先・ケースは毎回変わる。コスモス以外に、はぴなにも１回訪問をし、幅広いケース視野を体験はできている。（伊名岡）	・
実地研修	4/14 表出コンサル1名 4/25 ASDコンサル1名 5/24,25とれとれ研修2×2名 9/8 表出コンサル2名 9/19 ASDコンサル2名　計10名	・事業２年目のためコンサルテーションを俯瞰して体験をしていただいている。自らのケースでないため客観的に物事をとらえ、学ぶ機会を作ることで積み上げてきた枠を大切にしつつ”枠”を広げる機会となっている。（伊名岡）	・
実践報告会（法人内）	・12/11（木）18:00～20:00		
実践報告会（市向け）	・2月14日（土）13:30～16:30 西文化センター		

標準的な支援状況表（コスモス様）

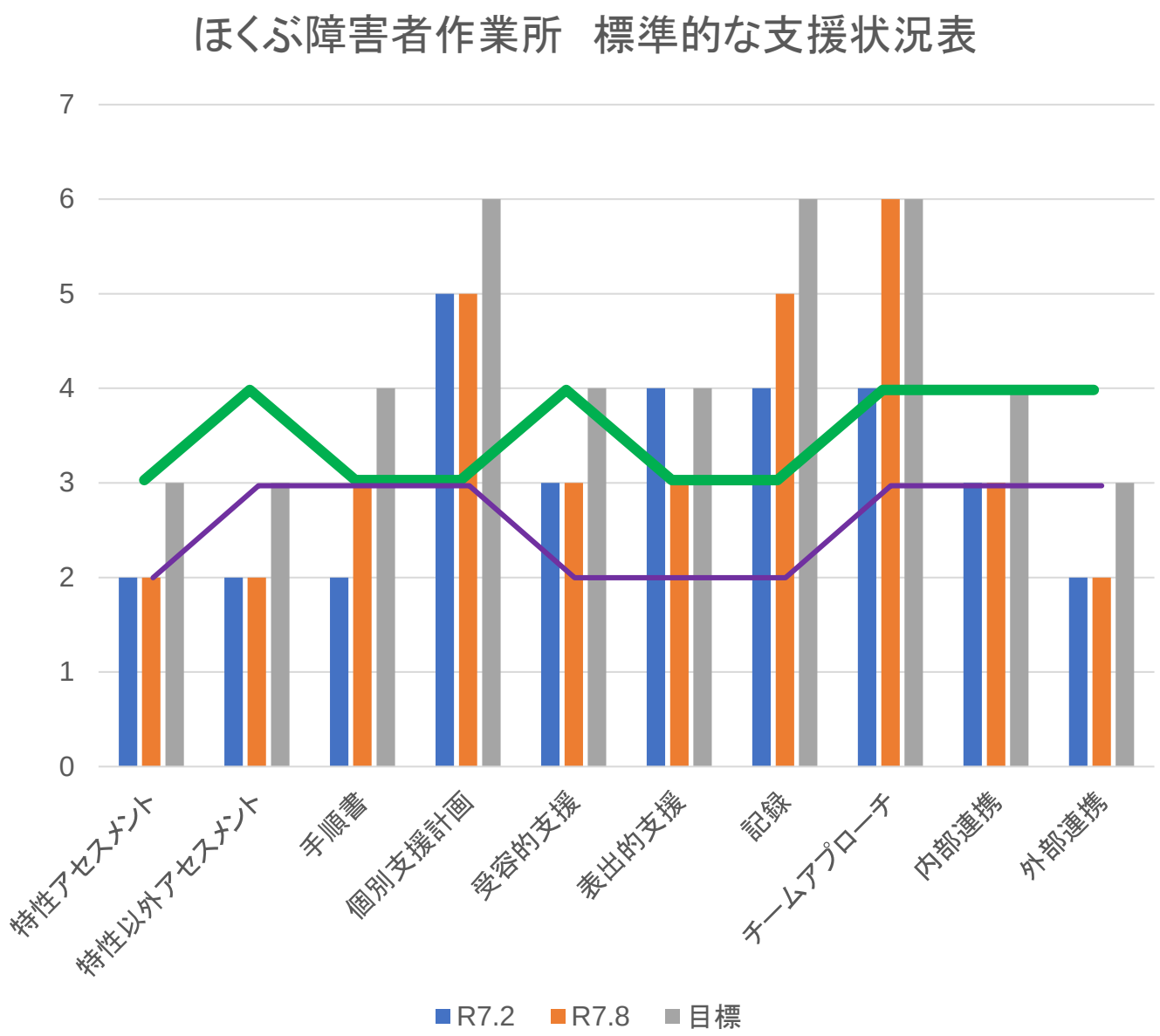
標準的な支援状況表（おおはま障害者作業所）							
	開始時点	R7.2評価			R7.8評価		
		自己評価	コンサル評価	目標	自己評価	コンサル評価	目標
アセスメント（障害特性）	3	3	2	3	3	3	3
アセスメント（特性以外）	3	3	3	3	3	4	3
支援手順書	1	1	3	2	1	3	2
個別支援計画書	5	5	3	6	5	3	6
受容的支援	4	4	2	5	4	4	6
表出的支援	2	2	2	4	2	3	4
記録	4	4	2	6	4	3	5
チームアプローチ	6	6	3	6	6	4	6
内部連携	4	4	3	4	4	4	4
外部連携	4	4	3	4	4	4	4
平均値	3.6	3.6	2.6	4.3	3.6	3.5	4.3



標準的な支援状況表（コスモス様）

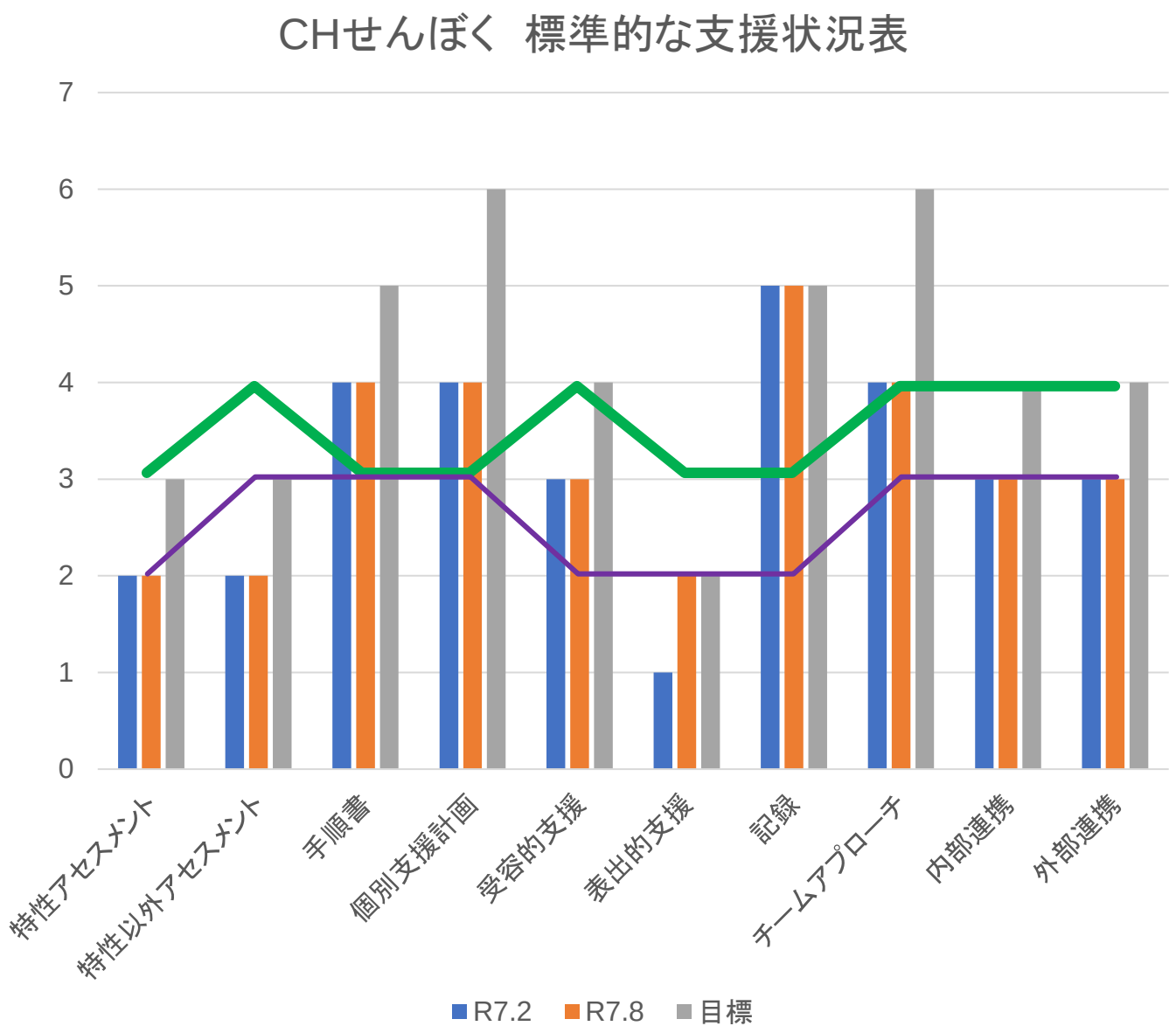
標準的な支援状況表（ほくぶ障害者作業所）

	開始時点	R7.2評価			R7.8評価		
		自己評価	コンサル評価	目標	自己評価	コンサル評価	目標
アセスメント（障害特性）	2	2	2	3	2	3	3
アセスメント（特性以外）	2	2	3	3	2	4	3
支援手順書	2	2	3	3	3	3	4
個別支援計画書	5	5	3	6	5	3	6
受容的支援	3	3	2	4	3	4	4
表出的支援	4	4	2	5	3	3	4
記録	4	4	2	5	5	3	6
チームアプローチ	5	4	3	6	6	4	6
内部連携	3	3	3	4	3	4	4
外部連携	2	2	3	3	2	4	3
平均値	3.2	3.2	2.6	4.2	3.4	3.5	4.3



標準的な支援状況表（コスモス様）

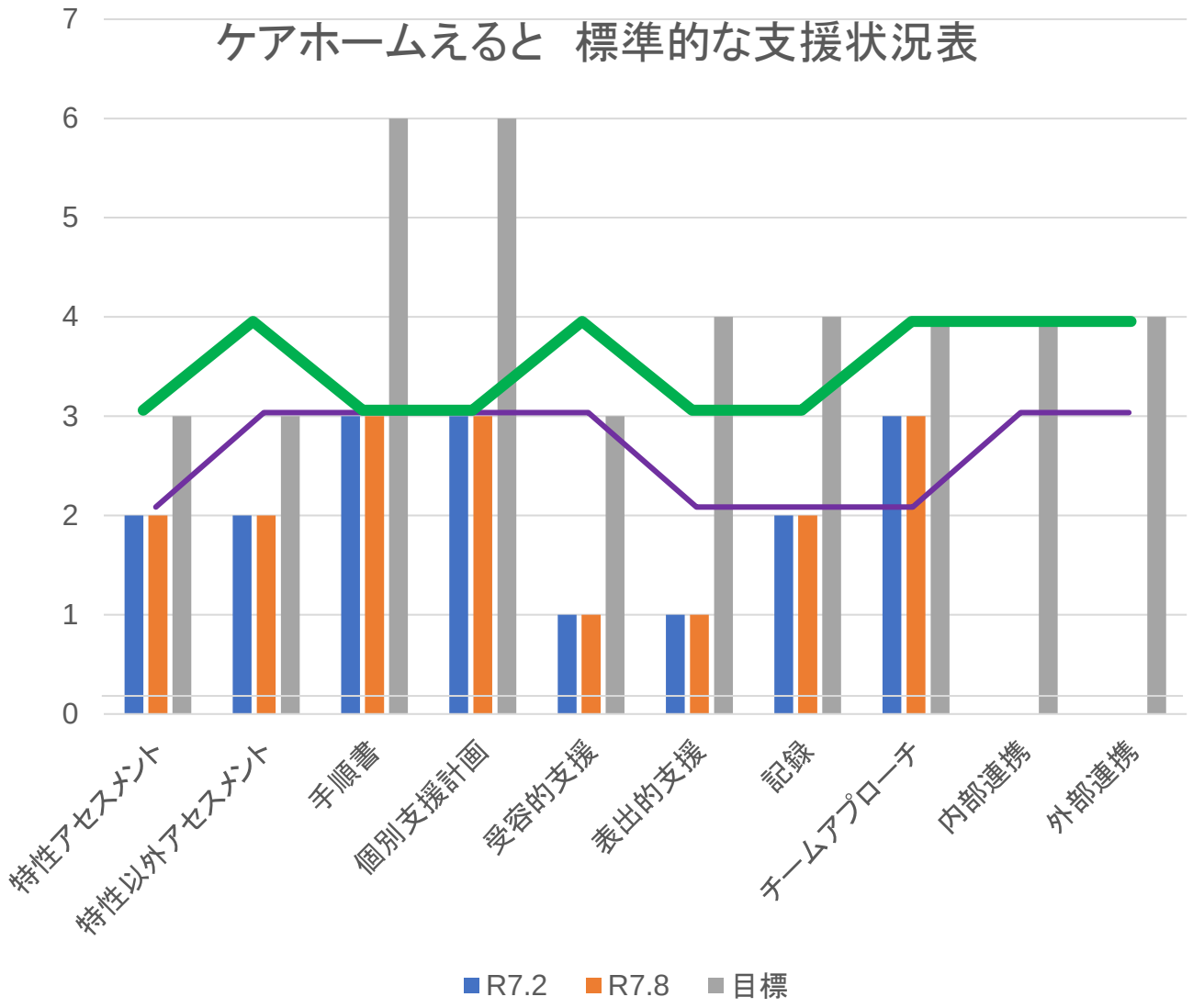
標準的な支援状況表（CHせんぼく）							
	開始時点	R7.2評価			R7.8評価		
		自己評価	コンサル評価	目標	自己評価	コンサル評価	目標
アセスメント（障害特性）	2	2	2	3	2	3	3
アセスメント（特性以外）	2	2	3	3	2	4	3
支援手順書	4	4	3	5	4	3	5
個別支援計画書	4	4	3	6	4	3	6
受容的支援	3	3	2	4	3	4	4
表出的支援	1	1	2	2	2	3	2
記録	5	5	2	6	5	3	5
チームアプローチ	4	4	3	6	4	4	6
内部連携	3	3	3	4	3	4	4
外部連携	3	3	3	4	3	4	4
平均値	3.1	3.1	2.6	3.8	3.2	3.5	4.2



標準的な支援状況表（コスモス様）

標準的な支援状況表（CHえると）

	開始時点	R7.2評価			R7.8評価		
		自己評価	コンサル評価	目標	自己評価	コンサル評価	目標
アセスメント（障害特性）	2		2	3	2	3	3
アセスメント（特性以外）	2		3	3	2	4	3
支援手順書	3		3	5	3	3	6
個別支援計画書	3		3	5	3	3	6
受容的支援	1		3	3	1	4	3
表出的支援	1		2	3	1	3	4
記録	2		2	4	2	3	4
チームアプローチ	3		2	4	3	4	4
内部連携			3			4	4
外部連携			3			4	4
平均値	2.1		2.6	3.8	2.0	3.5	4.1



職員アンケート

職員アンケート
（R7.9コスモス法人全体）

	R6.10	R7.2	R7.9	R8.2
個別支援計画	3.0		3.2	
担当利用者の特性理解	3.6		3.9	
行動障害自閉症理解	3.8		4.0	
特性に基いた環境調整等	3.7		3.9	
自己学習	3.0		3.2	
職員間コミュニケーション	3.7		3.9	
法人の理念・ビジョン	3.2		3.4	
支援を行ううえでの満足度	3.1		3.6	
平均値	3.5		3.6	

職員アンケート
（R7.9コアメンバー）

	R6.10	R7.2	R7.9	R8.2
個別支援計画	3.0	3	3.6	
担当利用者の特性理解	4.2	5	4.2	
行動障害自閉症理解	4.4	5	5.0	
特性に基いた環境調整等	4.4	4	4.6	
自己学習	4.0	3	4.2	
職員間コミュニケーション	3.8	4	4.8	
法人の理念・ビジョン	4.0	4	4.6	
支援を行ううえでの満足度	3.2	4	4.0	
平均値	3.9	4	4.4	

職員アンケート

職員アンケート
（R7.9 おおはま56名）

	R7.9	R8.2
個別支援計画	2.7	
担当利用者の特性理解	3.7	
行動障害自閉症理解	3.9	
特性に基いた環境調整等	3.8	
自己学習	3.3	
職員間コミュニケーション	3.8	
法人の理念・ビジョン	3.2	
支援を行ううえでの満足度	3.4	
平均値	3.5	

コアメンバーアンケート
（R7.9 おおはま１名）

	R7.9	R8.2
個別支援計画	4	
担当利用者の特性理解	4	
行動障害自閉症理解	6	
特性に基いた環境調整等	5	
自己学習	5	
職員間コミュニケーション	6	
法人の理念・ビジョン	5	
支援を行ううえでの満足度	6	
平均値	5.2	

職員アンケート
（R7.9 ほくぶ56名）

	R7.9	R8.2
個別支援計画	4.0	
担当利用者の特性理解	4.7	
行動障害自閉症理解	4.6	
特性に基いた環境調整等	4.2	
自己学習	3.4	
職員間コミュニケーション	4.2	
法人の理念・ビジョン	4.1	
支援を行ううえでの満足度	4.3	
平均値	4.2	

コアメンバーアンケート
（R7.9 ほくぶ１名）

	R7.9	R8.2
個別支援計画	4	
担当利用者の特性理解	4	
行動障害自閉症理解	5	
特性に基いた環境調整等	3	
自己学習	5	
職員間コミュニケーション	4	
法人の理念・ビジョン	4	
支援を行ううえでの満足度	5	
平均値	4.3	

職員アンケート

職員アンケート（R7.9）
コスモスCHせんぼく46名

	R7.9	R8.2
個別支援計画	3.2	
担当利用者の特性理解	3.6	
行動障害自閉症理解	3.4	
特性に基いた環境調整等	3.6	
自己学習	2.9	
職員間コミュニケーション	3.5	
法人の理念・ビジョン	3.1	
支援を行ううえでの満足度	3.0	
平均値	3.3	

コアメンバーアンケート
R7.9 CHせんぼく２名

	R7.9	R8.2
個別支援計画	4.0	
担当利用者の特性理解	5.0	
行動障害自閉症理解	4.5	
特性に基いた環境調整等	5.0	
自己学習	3.5	
職員間コミュニケーション	5.0	
法人の理念・ビジョン	5.5	
支援を行ううえでの満足度	2.5	
平均値	4.4	

職員アンケート（R7.9）
コスモスCHえると24名

	R7.9	R8.2
個別支援計画	3.0	
担当利用者の特性理解	4.0	
行動障害自閉症理解	4.1	
特性に基いた環境調整等	3.9	
自己学習	3.0	
職員間コミュニケーション	3.6	
法人の理念・ビジョン	3.2	
支援を行ううえでの満足度	3.3	
平均値	3.5	

コアメンバーアンケート
R7.9 CHえると１名

	R7.9	R8.2
個別支援計画	2	
担当利用者の特性理解	3	
行動障害自閉症理解	5	
特性に基いた環境調整等	5	
自己学習	3	
職員間コミュニケーション	4	
法人の理念・ビジョン	3	
支援を行ううえでの満足度	2	
平均値	3.5	

職員アンケート（R7.9）
SSえると11名

	R7.9	R8.2
個別支援計画	3.1	
担当利用者の特性理解	3.4	
行動障害自閉症理解	4.1	
特性に基いた環境調整等	3.8	
自己学習	3.2	
職員間コミュニケーション	4.2	
法人の理念・ビジョン	2.8	
支援を行ううえでの満足度	2.8	
平均値	3.3	

利用者行動評価

利用者評価　（せんぼくF様）

項目	R6.10	R7.2	R7.8	備考
表出コミュニケーション	2	2	2	言葉難しい。腕をもって連れていくなどで欲しいことを伝えている（変化なし）
受容コミュニケーション	1	1	1	仕事、ご飯、ガイド等の言葉は分かるが、〇のあと✕のような理解は難しい。視覚的に実物等で予定を伝えている。
多動・行動停止	2	2	2	気になることがありよく動いている。目的がある。歯ブラシ、連絡帳、食器など
不安定な行動				こだわりを制止されると不安定。8月健康診断の医療用具にこだわり制止した職員をつねる行動があった。
自傷	0	0	2	イライラ時舌をかむ。8月末からつねる、などの行動が続いている。
不適切な行動	2	2	2	人を無理に押しやる。泊りでない職員、部外者をホームの外に押しやる。
突発的な行動	1	1	1	気になるものがあるとそちらに行こうとする。ガイドなど外出時に多い。
異食				銭湯で排水溝のごみを口にしようとした。銭湯に行かないようにしている。
確認行動	2	2	2	物の位置を確認（キッチンのやかんの取っ手や食器）
こだわり	2	2	2	靴や歯ブラシ向き、特定の利用者の靴下
排泄	2	2	2	送迎車内、ソファー、窓から外への排尿コップに尿をためようとする姿がある。
他者を動かす	2	2	2	他利用者が部屋に戻ろうとする際、トイレに入らせようとする
合計	16	16	18	

利用者評価　（ほくぶ障害者作業所　H様）

項目	R6.10	R7.2	R7.8	備考（R7.8評価）
表出コミュニケーション	2	2	2	首振りで意思を伝える。「待つ・休憩」は本人独自のサイン。本人なりに考え折り合いをつける時、考えるポーズをする。
受容コミュニケーション	1	1	1	簡単な単語はある程度理解。（仕事、トイレ、ご飯等）写真カード興味を示さないこと多いが、稀に写真で伝わる。（経験から理解している雰囲気）
多動・行動停止	2	2	2	部屋の中を歩き回る。気持ちの切り替えがしにくい時は行動停止。
不安定な行動	2	1	1	特定の職員から離れられず探し回る。意にそぐわないと怒って自傷あり。（少し離れられるようになった）
自傷	1	1	1	思い通りにならない時は自分の頭やふともも、腕を殴る自傷がある。葛藤している時
他害・破壊	2	2	2	物を強く叩きつけて時には壊してしまう。(食器やカバン等)自分の思い通りにならない時や折り合いをつける時。
不適切な行動	2	2	2	職員が離れないよう服や腕を引っ張る。他者の頭をにおう。
大声・奇声	2	2	2	甲高い声を出す事が多い。
突発的行動	1	1	2	特定の職員が居なくなると突然走り出して探しに行く。思い立って走り出すことが多い。
異食	1	0	0	散歩時、草や葉っぱを口に入れる。落ちた食べ物を食べてしまう。（ほとんどない。外に行くと葉っぱを口に入れる）
過食・反すう	1	0	0	好物はああるだけ食べてしまう。他の人の物もとって食べてしまう。（支援者がなければ多飲水）
確認行動	2	2	2	行動を行なう前に必ず職員に確認を求める。答えが違うと、納得するまで繰り返し確認。常にある。
こだわり	2	2	2	物の配置が気になる。反復行動（儀式的）毎日ある。特定の職員の執着が非常に強く離れない。その職員がいないと動けない。常にある。
気持ちの切替え	2	2	2	何か納得できないことや、見通しが持ててない、やり残した行動がある時など気持ちの切り替えが出来ず固まってしまう。
合計	23	20	21	5月にGHに入居。4月から火、水は他事業所（のあ）に通所。ホームでは落ち着いているが自宅に帰る予定が見通せていない時は、ホームに帰ろうとしない。

社会福祉法人　こころの窓

令和7年度実施計画（社会福祉法人こころの窓）

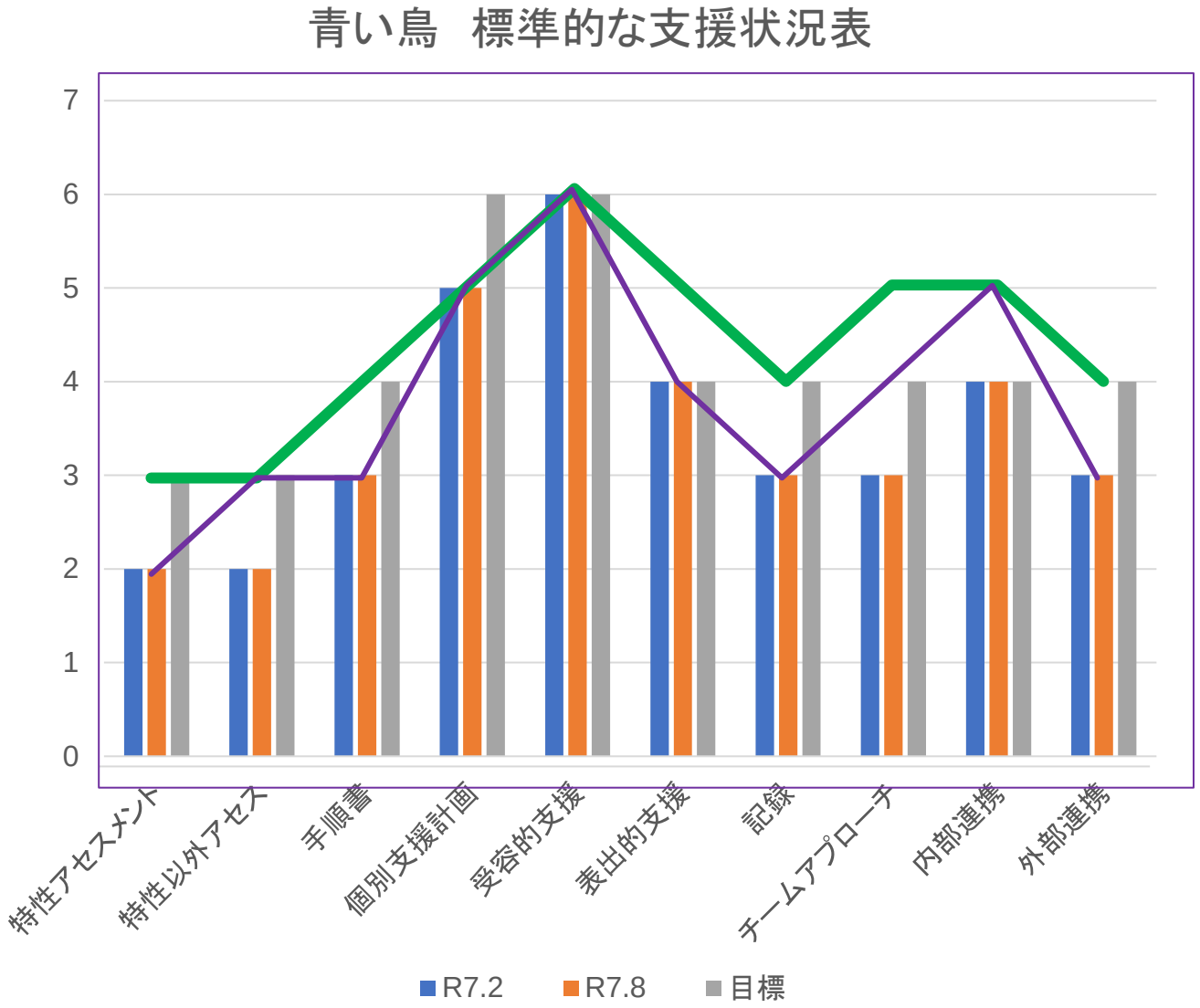
目標設定	
今年度目標	・利用者の直接支援が出来ている ・コアメンバーがアセスメントができるようになり、支援の組み立てができるようになる。 ・コアメンバーが支援の振り返りから組み立てができる（PDCAサイクルをまわす） ・チーム支援を展開できる
最終目標	・強度行動障がいのある方の支援おいて、堺市内の事業所の核となり、支援をリードしている。 ・強度行動障がいのある方を対象としたグループホームの支援を行うなど地域生活支援を展開している。

令和７年度予定プログラムと評価

プログラム	実施計画	令和7年度8月評価	令和7年度2月評価
訪問コンサルテーション	・5/21、6/16、8/18、9/29（2回分）、 11/17（2回分）、12/19、2/16　　計9回 （担当：伊名岡、辻本）	・予定通り遂行。訪問先で継続してケースを進めている。話を伺いスーパービジョンをするだけでなく、支援ツールを一緒に作る時間を設けて、徐々に発想から”形”にし、実践までつながりが出てきている。	
実地研修	・7/14(2名)、7/22(2名)、7/25(2名)、10/25、26(各2名計4名) 計10名	・事業２年目のためコンサルテーションを俯瞰して体験をしていただいている。自らのケースでないため客観的に物事をとらえ、学ぶ機会を作ることで積み上げてきた枠を大切にしつつ”枠”を広げる機会となっている。	
実践報告会(法人内)	・11/21（金）17:15-18:15		
実践報告会（市向け）	・2月14日（土）13:30～16:30 西文化センター		

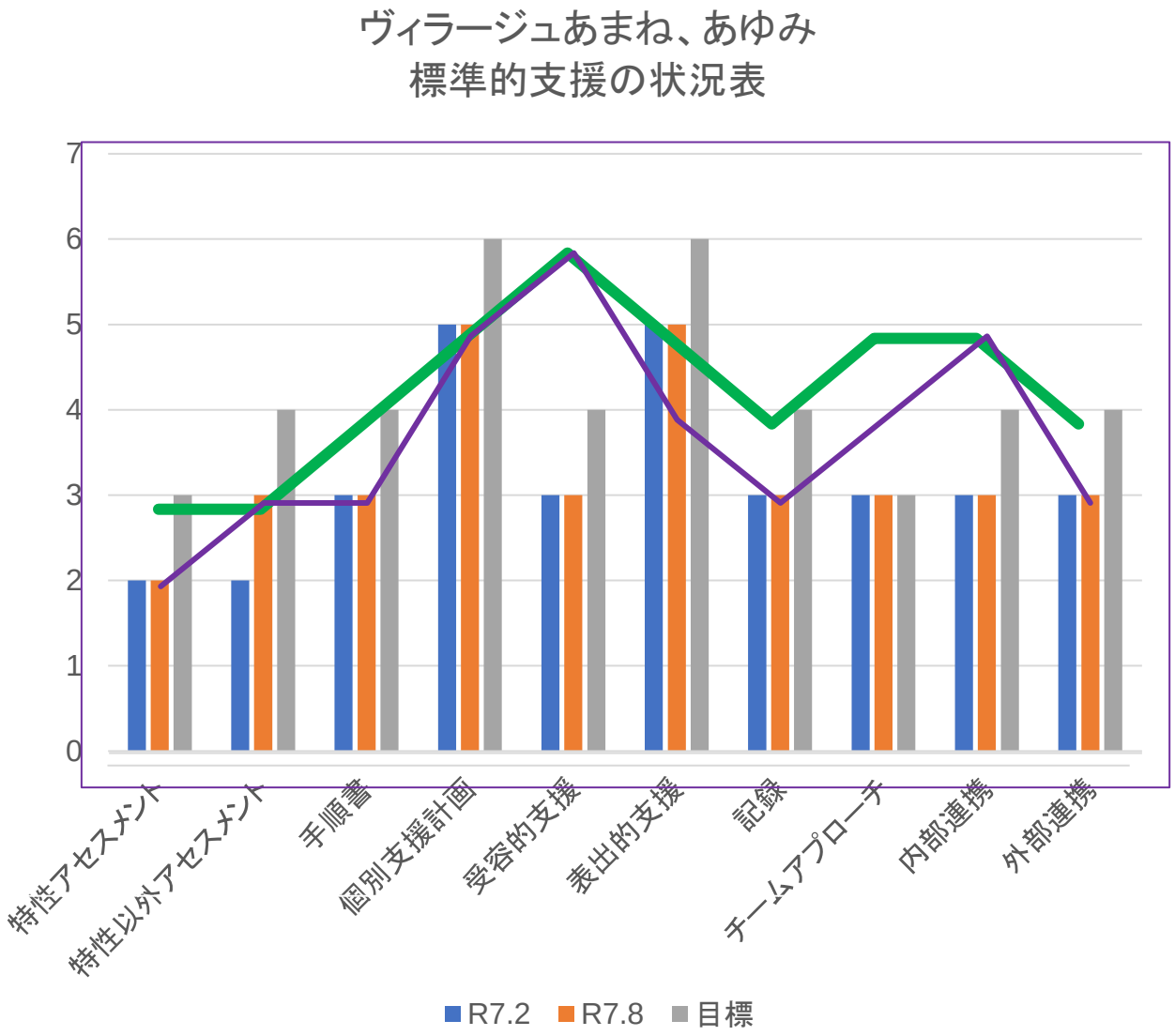
標準的な支援状況表（こころの窓様）

標準的な支援状況表　（青い鳥）							
	開始時点	R7.2評価			R7.8評価		
		自己評価	コンサル評価	目標	自己評価	コンサル評価	目標
アセスメント（障害特性）	2	2	2	3	2	3	3
アセスメント（特性以外）	2	2	3	3	2	3	3
支援手順書	3	3	3	4	3	4	4
個別支援計画書	5	5	5	6	5	5	6
受容的支援	6	6	6	6	6	6	6
表出的支援	6	4	4	4	4	5	4
記録	3	3	3	4	3	4	4
チームアプローチ	3	3	4	4	3	5	4
内部連携	4	4	5	4	4	5	4
外部連携	3	3	3	4	3	4	4
平均値	3.7	3.5	3.8	4.2	3.5	4.4	4.2



標準的な支援状況表（こころの窓様）

標準的な支援状況表 （ヴィラージュあまね、ヴィラージュあゆみ）							
	開始時点	R7.2評価			R7.8評価		
		自己評価	コンサル評価	目標	自己評価	コンサル評価	目標
アセスメント（障害特性）	2	2	2	3	2	3	3
アセスメント（特性以外）	2	2	3	3	3	3	4
支援手順書	3	3	3	4	3	4	4
個別支援計画書	5	5	5	6	5	5	6
受容的支援	6	3	6	4	3	6	4
表出的支援	6	5	4	6	5	5	6
記録	3	3	3	4	3	4	4
チームアプローチ	3	3	4	3	3	5	3
内部連携	4	3	5	4	3	5	4
外部連携	3	3	3	4	3	4	4
平均値	3.7	3.2	3.8	4.1	3.3	4.4	4.2



職員アンケート

職員アンケート
（青い鳥 生活介護 就労B ）

	R6.10	R7.2	R7.9	R8.2
個別支援計画	3.7		3.9	
担当利用者の特性理解	3.9		2.0	
行動障害自閉症理解	4.3		4.6	
特性に基いた環境調整等	4.2		3.9	
自己学習	2.9		2.7	
職員間コミュニケーション	3.9		3.3	
法人の理念・ビジョン	3.5		3.1	
支援を行ううえでの満足度	3.4		2.9	
平均値	3.7		3.4	

コアメンバーアンケート
（青い鳥 生活介護 就労B 計5名）

	R6.10	R7.2	R7.9	R8.2
個別支援計画	4.6	3.4	3.8	
担当利用者の特性理解	3.6	3.0	4.8	
行動障害自閉症理解	4.2	4.2	4.6	
特性に基いた環境調整等	3.8	4.0	4.8	
自己学習	3.2	3.0	2.8	
職員間コミュニケーション		3.7	4.6	
法人の理念・ビジョン	4.0	3.4	3.4	
支援を行ううえでの満足度	3.4	3.0	3.0	
平均値	3.8	3.5	4.0	

利用者評価（青い鳥 もずホーム　M.M氏）

項目	R6.10	R7.2	R7.8	備考
表出コミュニケーション	2	2	2	発語なし。本人発信の意思表示なし（変化なし）
受容コミュニケーション	1	1	1	ボールを使ったやりとりを練習中（変化なし）
多動・行動停止	2	2	2	自身で動かれることなく常に座って過ごされる。（散歩の機会は増えた）
不安定な行動	1	1	2	ホームで普段と違う様子が増えている（座る位置の変化、トイレが頻回など）
自傷	0	0	0	（変化なし）
他害・破壊	0	0	0	以前は服を破られることがあった。（変化なし）
大声・奇声	2	2	2	大声で唸っていることがある。
過食・多飲水・反すう	2	2	2	調整はしているが提供されれば食べ続ける（変化なし）
睡眠	1	1	1	睡眠時間が極端に短い日がある（変化なし）
排泄	2	2	2	便器につば吐きがある（変化なし）
夜間に電気、ドアノブ等こだわり	2	2	2	夜間に電気をつける。ドアノブをガチャガチャ（変化なし）
合計	15	15	16	

利用者評価（青い鳥　ヴィラージュあゆみS.I氏）

項目	R6.10	R7.2	R7.8	備考
表出コミュニケーション	1	1	1	ジェスチャーで表現（カードで意思を伝えてもらう練習中）
受容コミュニケーション	1	1	1	職員の言葉ある程度理解。（スケジュールを改定、理解しやすくなった）
多動・行動停止	2	2	1	急な立ち止まり、座り込みあり。拒否の手段。（活動停止の頻度は減少）
不安定な行動	2	2	1	急な感情変化(笑っていたら、急に怒り出す)（イライラは減少している）
自傷	2	2	1	頭を叩く、壁に体を打ち付ける行為（自傷は少なくなっている）
大声・奇声	1	1	1	（変化なし）
突発的行動	1	1	1	（変化なし）
過食・多飲水	1	1	1	自宅では制限できず自由に飲食（変化なし）
確認行動	2	2	1	男子トイレのこだわり（職員が見ていない間に男性トイレを見に行く）
こだわり	2	2	2	服やプリキュアの本などのこだわり（常時ある。変化なし）
睡眠	2	2	2	19時～2時に睡眠。2時以降覚醒（1日7時間の睡眠。変化なし）
排泄	2	2	2	夜間ベッドに排尿、自宅はトイレに行かず座ったまま排尿（変化なし）
睡眠リズム	2	2	2	睡眠リズムがずれる（変化なし）
合計	21	21	17	不穏になられる回数は減少している

社会福祉法人　障友会

令和7年度実施計画（社会福祉法人障友会）

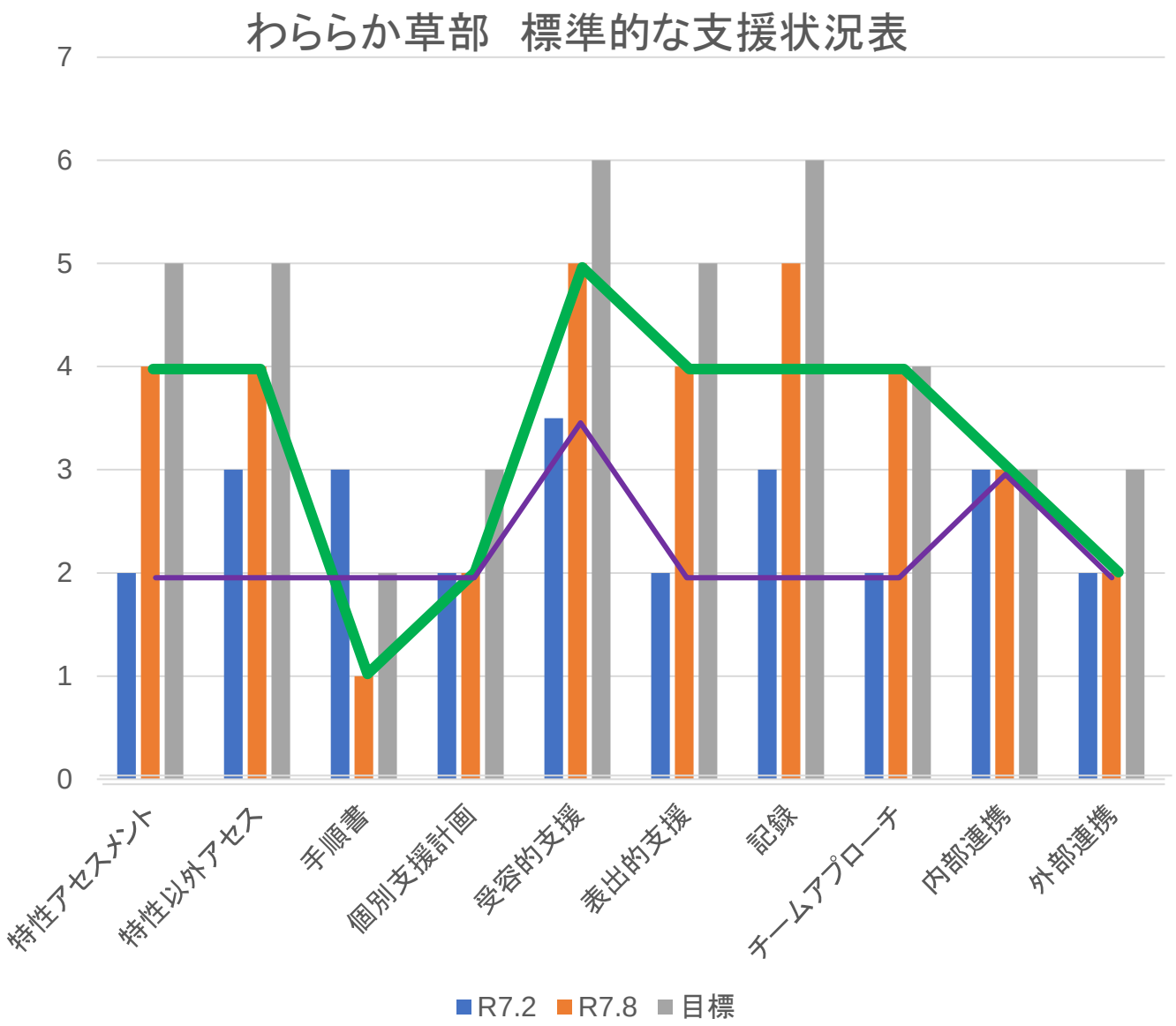
目標設定	
今年度目標	・ご利用者の直接支援が出来ている ・コアメンバーがアセスメントができるようになり、支援の組み立てができるようになる。 ・コアメンバーが支援の振り返りから組み立てができる（PDCAサイクルをまわす） ・チーム支援を展開できる
最終目標	・強度行動障がいのある方の支援おいて、堺市内の事業所の核となり、支援をリードしている。 ・強度行動障がいのある方を対象としたグループホームの支援を行うなど地域生活支援を展開している。

令和７年度予定プログラムと評価

プログラム	実施計画	令和7年8月期評価	令和7年度2月期評価
訪問コンサルテーション	・5/30、6/20、7/18、8/29、10/17、 11/21、12/19、1/16、 2/20 計9回予定 （担当：小林）	・コアメンバーは、課題行動の設定に於いて、特性理解を深め、ご本人目線で考えられるようになった。ご本人の時間的・空間的な見通しの持ちにくさ（中枢統合・の困難さ）からスケジュールボードの作成に取り組んだ。チームで、記録⇒振り返り⇒支援の修正というサイクルに取り掛かかり始める。	・
実地研修	・9/19：2名、 10/25、26：各2名計4名 11/10：2名、11/28：2名 計10名の予定	・9月19日に2名が実地研修を体験する。実地研修で体験したことを事業所に持ち帰り、チーム内で実践の共有を行うことができた。これを契機に他事業所に見学に行ったり、他事業所と意見交換をしたりするようになる。	・
実践報告会（法人内）	・12/19（金）17:30-19:00		・
実践報告会（市向け）	・2月14日（土）13:30～16:30 堺市西文化センター		・

標準的な支援状況表（障友会 様）

標準的な支援状況表（わららか草部）							
	開始時点	R7.2評価			R7.8評価		
		自己評価	コンサル評価	目標	自己評価	コンサル評価	目標
アセスメント（障害特性）	2	2	2	3	4	4	5
アセスメント（特性以外）	3	3	2	3	4	4	5
支援手順書	3	3	2	4	1	1	2
個別支援計画書	2	2	2	4	2	2	3
受容的支援	3.5	3.5	3.5	6	5	5	6
表出的支援	2	2	2	3	4	4	5
記録	3	3	2	4	5	4	6
チームアプローチ	2	2	2	3	4	4	4
内部連携	3	3	3	4	3	3	3
外部連携	2	2	2	3	2	2	3
平均値	2.6	2.6	2.3	3.7	3.4	3.3	4.2



職員アンケート

職員アンケート（わららか草部 20名）				
	R6.10	R7.2	R7.9	R8.2
個別支援計画	3.1	3.5	2.9	
担当利用者の特性理解	4.1	4.1	4.0	
行動障害自閉症理解	4.1	4.4	4.4	
特性に基いた環境調整等	3.9	4.1	4.3	
自己学習	3.3	3.5	3.1	
職員間コミュニケーション	3.4	4.3	4.1	
法人の理念・ビジョン	3.5	3.7	4.0	
支援を行ううえでの満足度	3.3	4.0	3.5	
平均値	3.6	3.9	3.8	

コアメンバーアンケート（わららか草部4名、 計5名）				
	R6.10	R7.2	R7.9	R8.2
個別支援計画	3.4	3.8	4.3	
担当利用者の特性理解	3.8	4.3	5.8	
行動障害自閉症理解	4.0	4.5	4.2	
特性に基いた環境調整等	4.6	4.3	4.8	
自己学習	3.0	3.3	4.0	
職員間コミュニケーション	4.0	3.8	4.0	
法人の理念・ビジョン	3.0	3.5	3.8	
支援を行ううえでの満足度	4.2	4.0	4.3	
平均値	3.8	3.9	4.4	

職員アンケート（堺みなみ15名）		
	R7.9	R8.2
個別支援計画	3.8	
担当利用者の特性理解	3.6	
行動障害自閉症理解	4.3	
特性に基いた環境調整等	3.7	
自己学習	3.1	
職員間コミュニケーション	4.5	
法人の理念・ビジョン	3.6	
支援を行ううえでの満足度	3.7	
平均値	3.8	

コアメンバーアンケート（堺みなみ2名）		
	R7.9	R8.2
個別支援計画	2.5	
担当利用者の特性理解	3.5	
行動障害自閉症理解	4.0	
特性に基いた環境調整等	4.0	
自己学習	3.0	
職員間コミュニケーション	2.5	
法人の理念・ビジョン	3.0	
支援を行ううえでの満足度	5.0	
平均値	3.6	

利用者評価（わららか草部　T氏）

項目	R6.10	R7.2	R7.8	備考
表出コミュニケーション	0	1	1	言葉でコミュニケーションが取れる（伝えることが難しいこともある）
受容コミュニケーション	1	1	1	複雑なことは紙に書くなど視覚的支援が必要
多動・行動停止	2	2	2	以前より落ち着いて過ごせている。月経前は落ち着きがない。
不安定な行動	2	2	1	特定の人への過敏な関りが週1回程度に減少している。
自傷	2	2	0	施設での自傷は滅多にない。
不適切な行動	2	2	2	以前より行動は減ってきているがなくなっている訳ではない。
大声・奇声	2	2	1	スケジュールの提示で以前より高い声を出されることが減った。
突発的行動	2	2	2	気になる人や物を見つけると走り出し確認する
確認行動	2	2	2	職員の休みや1日のスケジュールを提示し、確認は減っているが、毎日確認される。
こだわり	2	2	2	行動（確認、トイレ）によって行う人が決っている
睡眠	2	2	1	以前と比べると日中に眠られることは減っている。
挑発行動	2	2	1	スケジュール提示で確認は減少。特定の人への過敏な関りはあるが、、以前より減少している。
合計	21	22	16	

利用者評価（わららか草部　Y氏）

項目	R6.10	R7.2	R7.8	備考
表出コミュニケーション	1	1	1	職員の手を引く・1語文。ストレス時手を噛み表現。（変化なし）
受容コミュニケーション	1	1	1	簡単な単語の意味は理解 意味理解は弱い（変化なし）
多動・行動停止	2	2	2	飛び跳ねる。急に走る。気になるところへ行く（1日30回→10回程度）
不安定な行動	2	2	2	ストレス時に飛び跳ねる。手を噛む、耳をふさぐ（1日10回→5回程度）
自傷	2	2	2	手を噛む自傷（程度が強い噛む行動は週1回程度に減った）
他害・破壊	1	1	1	支援者の手を自身の額に強く押し付ける（回数は減った）
不適切な行動	2	2	2	興味物を触る カラーコップを重ねる（変化なし）
大声・奇声	2	2	2	ストレス時大きな声 （1日5回→3回）
突発的行動	2	2	2	トイレに行く際、作業ボックスを重ねる際走る（1日10回→5回程度）
過食・反すう	2	2	2	食事時、口に入れた物を出して障る。錠剤を噛砕く（変化なし）
こだわり	2	2	2	作業ボックス、カラーコップのこだわり。（1日10回→5回程度）
行動の切替え	2	2	1	スケジュール使用でやることが明確になり困っていることが減った。
合計	21	22	21	

利用者評価（堺みなみ　T氏）

項目	R7.8	R8.2	備考
受容コミュニケーション	1		字・言葉　難しい言葉組み合わせが多くなると×
多動・行動停止	2		手持ち無沙汰になると備品の整理や資材の補充をする。予定変更の対応が難しい
不安定な行動	2		自分で決めた予定通りに行かない時、切り替え中に電話、放送がなった時。
自傷	2		足を床にたたきつける かさぶたをめくる
他害・破壊	2		作業の資材を破る
不適切な行動	2		資材の補充
大声・奇声	2		いやな時や場面の切替え時に叫ぶ。職員の名前や苦手な利用者さんの名前を叫ぶ
突発的な行動	1		車に乗り込む際、門を開けに行こうとする。外出時トイレがあると走っていく。
確認行動	2		朝の会の始まりを確認
こだわり	2		切替え時、指定の職員が指定の位置にいないと切替え出来ない。
睡眠	2		家でもショートステイでもあまり眠れていない。日中立ったまま寝ることがある。
排泄に関して	2		行動の切換え時にトイレに行く。 トイレ内はひとりでないと出来ない。
合計	22		

個人参加法人

ライフサポート協会はぴな（コスモス様に参加）

職員アンケート
（生活介護11名）※R7.2は10名

	R6.10	R7.2	R7.9	R8.2
個別支援計画	4.4	4.2	3.9	
担当利用者の特性理解	4.4	4.8	4.5	
行動障害自閉症理解	5.0	5.4	5.3	
特性に基いた環境調整等	4.6	4.5	4.3	
自己学習	3.2	3.5	3.5	
職員間コミュニケーション	4.1	4.3	4.3	
法人の理念・ビジョン	4.6	4.5	4.1	
支援を行ううえでの満足度	4.3	3.8	3.6	
平均値	4.3	4.4	4.2	

コアメンバーアンケート
（生活介護１名）

	R6.10	R7.2	R7.9	R8.2
個別支援計画	4	4	4	
担当利用者の特性理解	5	5	5	
行動障害自閉症理解	5	5	5	
特性に基いた環境調整等	5	6	6	
自己学習	6	6	6	
職員間コミュニケーション	4	4	4	
法人の理念・ビジョン	5	6	6	
支援を行ううえでの満足度	6	6	6	
平均値	5	5.3	5.3	

自立支援協会　ケアサポートしののめ（コスモス様に参加）

※R7.9は集計中

職員アンケート
（行動援護 19名）　※R7.2は14名

	R6.10	R7.2	R7.9	
個別支援計画	3.6	3.9		
担当利用者の特性理解	4.1	4.7		
行動障害自閉症理解	4.7	5.1		
特性に基いた環境調整等	4.4	4.5		
自己学習	2.8	3.2		
職員間コミュニケーション	4.1	4.4		
法人の理念・ビジョン	4.6	4.6		
支援を行ううえでの満足度	3.4	2.9		
平均値	4	4.2		

コアメンバーアンケート
（行動援護１名）

	R6.10	R7.2	R7.9	R8.2
個別支援計画	4	4		
担当利用者の特性理解	2	3		
行動障害自閉症理解	5	5		
特性に基いた環境調整等		4		
自己学習	4	4		
職員間コミュニケーション	5	5		
法人の理念・ビジョン	5	5		
支援を行ううえでの満足度	5	4		
平均値	4.3	4.3		

ヴァンサンクつつじ（こころの窓様に参加）

職員アンケート
（GH、生活介護、就B 36名） ※R7.2は35名

	R6.10	R7.2	R7.9	R8.2
個別支援計画	2.6	2.6	2.8	
担当利用者の特性理解	3.4	3.4	3.4	
行動障害自閉症理解	3.9	4.0	3.7	
特性に基いた環境調整等	3.4	3.4	3.3	
自己学習	3.2	3.2	3.1	
職員間コミュニケーション	3.6	3.6	4.0	
法人の理念・ビジョン	2.5	2.6	2.6	
支援を行ううえでの満足度	3.7	3.9	3.2	
平均値	3.3	3.3	3.3	

コアメンバーアンケート
（GH１名）

	R6.10	R7.2	R7.9	R8.2
個別支援計画	3	3	4	
担当利用者の特性理解	5	5	6	
行動障害自閉症理解	5	5	6	
特性に基いた環境調整等	6	6	6	
自己学習	6	5	5	
職員間コミュニケーション	5	5	6	
法人の理念・ビジョン	5	5	6	
支援を行ううえでの満足度	6	6	6	
平均値	5.1	5.0	5.6	

グループホームドーナツ（障友会様に参加）

職員アンケート
（グループホーム 6名）

	R6.10	R7.2	R7.9	R8.2
個別支援計画	3.0	3.2	3.3	
担当利用者の特性理解	3.7	4.0	4.0	
行動障害自閉症理解	3.5	3.8	4.2	
特性に基いた環境調整等	3.8	4.2	4.3	
自己学習	3.7	3.7	3.7	
職員間コミュニケーション	3.5	3.5	3.7	
法人の理念・ビジョン	3.0	3.0	3.0	
支援を行ううえでの満足度	2.7	2.8	2.8	
平均値	3.4	3.5	3.6	

コアメンバーアンケート
（グループホーム １名）

	R6.10	R7.2	R7.9	R8.2
個別支援計画	4	4	4	
担当利用者の特性理解	5	5	5	
行動障害自閉症理解	4	4	5	
特性に基いた環境調整等	5	5	5	
自己学習	4	5	4	
職員間コミュニケーション	4	4	5	
法人の理念・ビジョン	5	5	5	
支援を行ううえでの満足度	3	3	3	
平均値	4.3	4.4	4.5	

資料2

強度行動障害支援に伴う「重度障害者支援加算」算定事業所数【堺市】

強度行動障害支援に伴う「重度障害者支援加算」算定事業所数（R7年8月1日時点）

サービス種別	事業者数		全事業所	割合
短期入所	12		38	32%
共同生活援助	34		121	28%
生活介護	(Ⅱ)50	(Ⅲ)40	118	76%

○短期入所

区分	適用対象者
重度障害者支援加算(Ⅰ)	障害支援区分6かつ行動関連項目10点以上の者等
重度障害者支援加算(Ⅱ)	障害支援区分4以上かつ行動関連項目10点以上の者等

○生活介護

区分	適用対象者
重度障害者支援加算(Ⅱ)	生活支援員の20%以上が、強度行動障害支援者養成研修の基礎研修の修了者である事業所において、実践研修修了者作成の支援計画シート等に基づき、強度行動障害を有する利用者（区分6かつ行動関連項目10点以上）に対して個別支援を行った場合
重度障害者支援加算(Ⅲ)	生活支援員の20%以上が、強度行動障害支援者養成研修の基礎研修の修了者である事業所において、実践研修修了者作成の支援計画シート等に基づき、強度行動障害を有する利用者（区分4以上かつ行動関連項目10点以上）に対して個別支援を行った場合

○共同生活援助

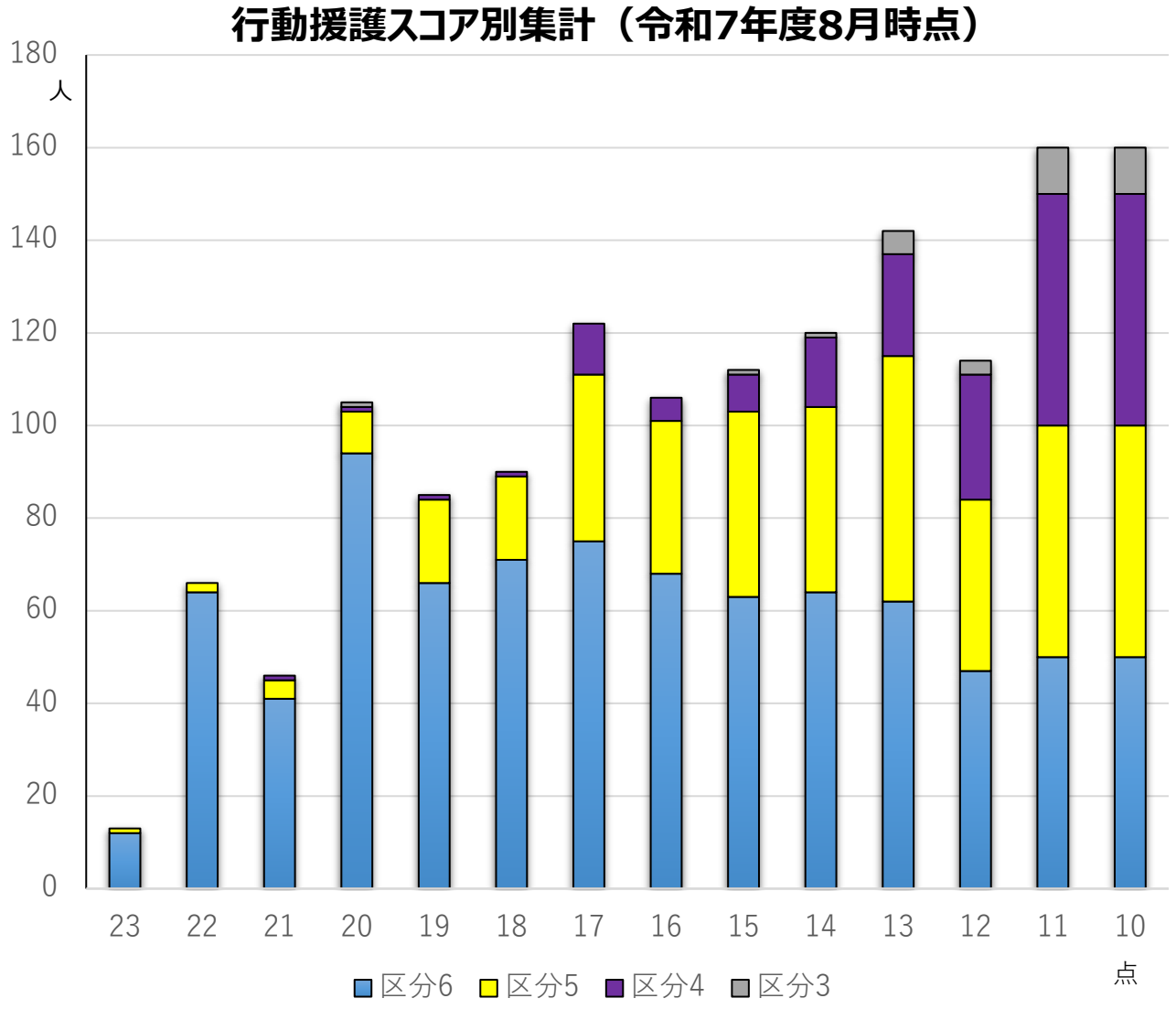
区分	適用対象者
重度障害者支援加算(Ⅰ)	生活支援員の20%以上が、強度行動障害支援者養成研修の基礎研修の修了者である事業所において、実践研修修了者作成の支援計画シート等に基づき、強度行動障害を有する利用者（区分6かつ行動関連項目10点以上）に対して個別支援を行った場合
重度障害者支援加算(Ⅱ)	生活支援員の20%以上が、強度行動障害支援者養成研修の基礎研修の修了者である事業所において、実践研修修了者作成の支援計画シート等に基づき、強度行動障害を有する利用者（区分4以上かつ行動関連項目10点以上）に対して個別支援を行った場合

〈参考〉強度行動障害支援に伴う「重度障害者支援加算」算定事業所数（R4年5月1日時点）

サービス種別	事業者数	全事業所	割合
短期入所	10	30	33%
共同生活援助	21	90	23%
生活介護	38	99	38%

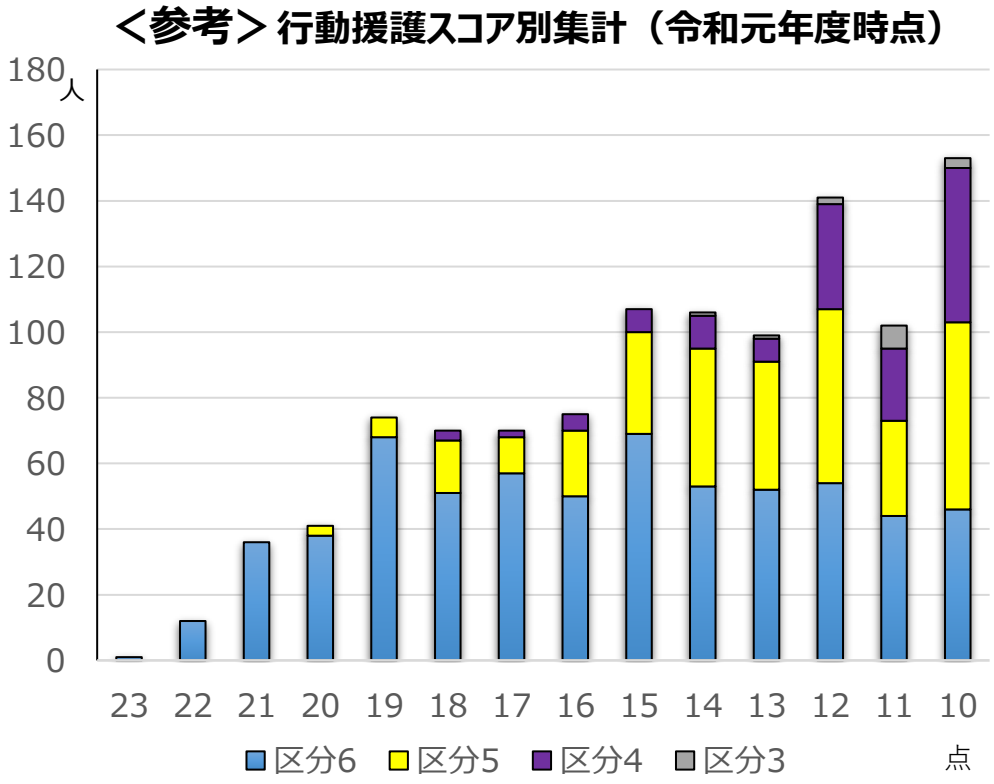
※R6年度報酬改定により算定要件が異なります。

障害支援区分認定調査に係る行動関連項目10点以上の方の実数



＜支援の対象者＞

障害福祉サービスを受ける際に行う障害支援区分の調査に合わせて把握する行動関連項目」を用いて判定し、10点以上に対し、手厚い支援を要する。　（府支援者養成研修資料より）



部会と事業の機能

資料3

	強度行動障害支援部会	強度行動障害支援体制整備事業
主体	堺市障害者自立支援協議会	堺市が主導する事業 （社会福祉法人 北摂杉の子会に委託）
目的	強度行動障害のある人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるため、個々のニーズに柔軟に対応し、地域での生活を実現すること （強度行動障害支援部会運営要領より）	強度行動障害のある人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために本市内で強度行動障害のある人への専門的な支援が実施できる人材の確保・育成、本市内の障害福祉に関する法人等への助言等ができる人材の確保・育成、児童期からの予防的な観点もふまえた支援体制・ネットワーク・社会資源の構築を整備すること （強度行動障害支援体制整備事業委託業務仕様書より）
実施内容	・会議の開催 ・堺市強度行動障害支援体制整備事業の運営や進捗管理、評価等 ・困難事例の検討や普及啓発等について協議	
関係者	委員（事業者、学識経験者、専門機関、参画法人、専門的法人、区協議会、堺市）	参画法人・専門的法人・堺市
期間	継続的（年3回程度開催）	令和6年度～令和8年度（3年間）

事 業	内 容
コンサルテーション	コンサルタントが訪問しケース等の支援方法のアドバイス等を行う
実地研修	北摂杉の子会のグループホーム等の現場実習を実施
講座	参画法人を対象に、強度行動障害のある人への基本的知識や支援技術を講義形式で実施
実践報告会	実際にコンサルテーションを受けて支援した事例の発表会を、参画法人内および市域向けに実施

前回の部会での主な意見（要旨）

堺市 SAKAI CITY

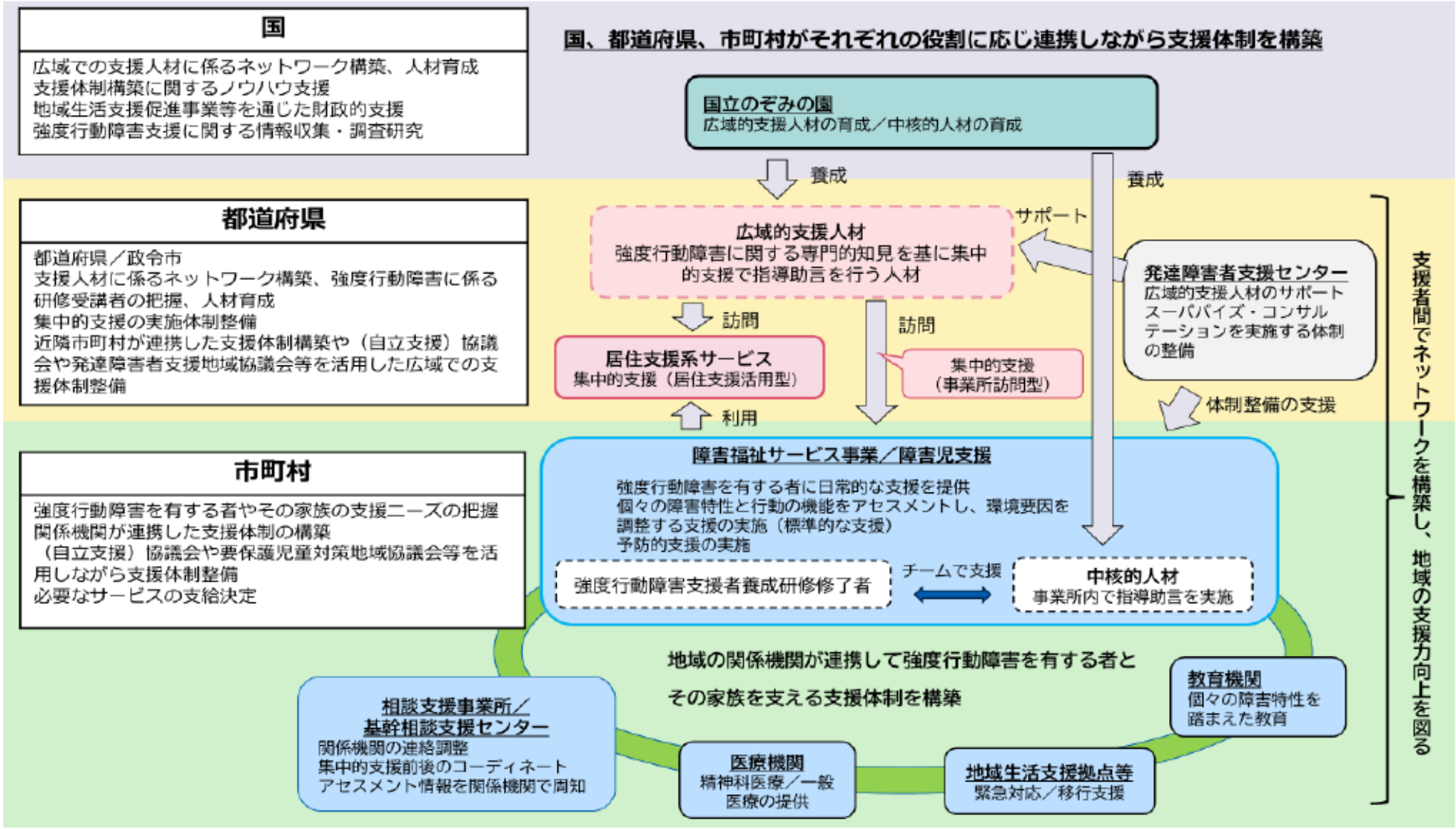
※以下、黄色マーカー部分は、
実践報告会に関する内容

- 昨年度、保護者と支援者が一緒に視覚支援ツールを作るワークショップを開催した。支援には**家庭**での取組も切って切り離せない。本事業は家族や本人から繋がっており、みんなで支援を進めている旨を伝えていただきながら、**参画法人からも**支援ツールについて広げてほしい。何か今後の支援に繋がる開催ができればと思う。
- 現場の支援者にも取組を広く伝える機会を作れると良い。オンデマンドか対面か、開催方法の検討は必要。
- 窓口対応では漠然とした困りごとを聞くが、深めていくのが大変。入口の研修から深めると良い。広い間口とまた狭めることを繰り返すことが必要だと思う。実践報告会は保護者にも聞いてもらえればと思う。
- **児童**との接続を考えた場合、市域向け実践報告会は、教育の関係者や支援者以外の保護者にも開かれ、できれば3法人集まってそれぞれの取組が聞ければ良いと思う。
- 最終的には**現場の支援者**や**保護者**も支援を担えるように情報を伝達できれば良い。
- 小児期に選択を促していないと、大人になって急にできない。**小児期からの自己選択**が大事で、そこには保護者の意識が関係する。ツールを作ると概念や理論はついてくる。当事者にとって、学校、施設、家庭といった異なる場面でも同じ環境でいられると混乱が生じない。実践報告会は対象者選定が難しいが、一般市民は他の研修もあるので参加対象には含めなくても差し支えないと思う。小児分野は大きなテーマなので、時間をかけても良い。**3法人が今後SVをしていくイメージ**を作れるようなものになればと思う。
- 強度行動障害の難しいところは本人の困りごとが見えないこと。行動障害のある方にとって支援ツールは、車いすを利用されている身体障害者にとっての車いすのように必要なものだが、**支援ツール**を作る時間がないなどで広まらないことが課題。支援ツールを使っている状況を見てもらうことで支援が進むきっかけになる。注意点として、使い方を誤ると弊害を生じることもあり、例えば、「こうするべき」という思いが強いスケジュールは使えなくなる。評価なしに使うと毒となり、段階的に考えないといけない。

厚生労働省による支援体制イメージ図

参考：強度行動障害の状態にある児者の地域支援体制

※【出典】厚生労働省



令和７年度 堺市障害者自立支援協議会
第２回 強度行動障害支援部会 議事概要

日時　令和７年10月16日（木）　10：00～12：00
場所　堺市役所本館６階 会議室Ｂ
出席者　林（コスモス）、植田（関西大学）、吉川（アプリコット堺）、陳（コスモス）、藤原（障友会）、
木村（こころの窓）、平野（北摂杉の子会）、石橋（北区基幹）、河瀬（地域福祉課）、
三枝、川﨑（更生相談所）、森（障害支援課）
欠席者　伊名岡（北摂杉の子会）、小林（北摂杉の子会）
傍聴　３名

１．強度行動障害支援体制整備事業

(1) 令和７年度上半期の経過報告　資料１

（専門的法人）各法人予定通りの進捗。評価項目１～３について改めて説明。資料の見方について、棒グラフは自己評価で、青色が２月の評価、オレンジ色が今回の評価、グレーが今年度の目標。折れ線グラフはコンサルタントの評価で、紫色が２月の評価、緑色が８月の評価。

コスモス

コロナによる延期はあったが概ね予定通りに実施。学びを通じて力不足を実感する時期であるので、自己評価では大きな変化は見られないが、コンサルタントによる客観的評価では１点以上上昇している。職員アンケートは法人全体で約300名のデータを取っていただいた。利用者行動評価については、点数は上がっているが、１日の中での行動回数が減少しているなど、点数には表れない部分に変化があった。

こころの窓

コンサルタントの評価は、チームアプローチの部分などが上昇している。職員アンケートは、コアメンバーの結果が前回より上昇しており、特に担当利用者の特性理解は大幅に上がった。利用者行動評価では利用者が穏やかになってきているのが見て取れる。

障友会

自己評価もコンサルタントの評価も上昇している。職員アンケートもコアメンバーの結果が上昇しており、自信を持ち始めていると思う。利用者行動評価は３名を対象としており、支援に取り組んでいる２名に加え、今後はさらに１名についても評価を実施。

個人参加法人

職員アンケートのみを実施。

・　（委員）事業開始から１年が経過し、今では現場で自ら考えて支援に取り組むようになってきた。コアメンバーのチーム力が上がってきた実感があり、利用者にも自傷の減少など変化が見られる。当初は３年間同じ利用者で進める予定だったが、別のケースを扱うこととなった。今後もコアメンバーからチーム力を高められるよう働きかけたい。

・　（委員）当初よりもコンサルテーションに参加する職員が増加し、ヘルパーや相談支援専門員なども加わり一緒に話し合いができた。本人とのやり取りは大きく変わっていないが、周囲の支援者が本人について考える時間が増えたように思う。職員が氷山モデルを意識するようになった。この事業を通じて、今後さらに良くなると思う。

・　（委員）コアメンバーの自己評価には甘さがあるかもしれないが、ポジティブに捉えて評価した。言語理解が難しいとされるケースでは、関わるタイミングに葛藤を抱えながら支援を続けている。担当職員が一人で考えざるを得ない状況もあり、フォロー体制を考えている。利用者の行動に対して、スケジュールの必要性をコアメンバーが認識している。研修で得た知識やアイデアを試せる職場環境をめざしており、職員会議でも共有した。コンサルタントからは、困った行動に対して「どの特性からか」という問いかけがあり、支援の根本を考える重要な視点を教えていただいている。

・　（委員）法人内でのモチベーションの温度差について、気になる点があれば伺いたい。

→（委員）職員アンケートを集約するときに、支援計画書を見たことがない、必要性を感じていないなどの意見が見られたが、現場会議で読むか否かに関わらず計画書を置いておくこと、現場の意見も汲みながら、双方向のやりとりを意識している。「できない」と言われても「どうすればできるか」を考えられるよう伝え続けることが大切だと考えている。

・　（委員）途中で別のケースに変更するときの判断基準があれば教えていただきたい。

→（委員）現在受講中の中核的人材養成研修においても、ゴールに早く近づくと思い同じケースを選定していたが、堺市事業のコンサルテーションと全く違うアプローチが出てきてしまい困ったためケースを変更した。

→（委員）他事業所にもコアメンバーが在籍しており、当初よりその事業所のケースを扱う予定であったことから、このタイミングで開始した。

・　（委員）青い鳥の職員アンケートで、「担当利用者の特性理解」に関するコアメンバーとそれ以外の職員との乖離はどう考えるか。

→（専門的法人）８名中１名の方の回答であったため、平均としての点数が取れていない。

・　（委員）３年の事業終了後に堺市内の中核的な役割を担うに至るまでの不満や不安、職員の負担などは無いか。

→（委員）4 年目で他の法人にコンサルテーションに行ける人が 1～2 名いるかもしれないが、3 年では難しいと思う。参画法人同士でコンサルテーションの練習などを通じて成長できれば良い。コアメンバーのストレスや不安は高いが、実地研修がモチベーションに繋がっている。

→（委員）3 年後にコンサルテーションができるのか不安。ケースのことを知っていると思って参加したが、知らないことも多くあることを学んだ。現場職員と一緒に考える過程を学べた。

→（委員）3 年後すぐに他の法人にコンサルテーションに行くのは難しいと思っている。コンサルテーションを受ける際にはコアメンバーのプレッシャーも高いが、それも仕事として頑張ってもらっている。法人として地域に還元できるか、今後さらに学び、考える必要があると思う。

・　（委員）利用者行動評価では点数に表れない部分に変化があったとのことだが、数値に現れない手ごたえを記録するアイデアはないか。また、障友会の標準的な支援状況表について、「支援手順書」の評価が低いのはなぜか。

→（専門的法人）定量評価と定性評価があり、備考欄に定性評価を記載しているが、書ききれていない部分もある。障害区分認定の項目を準用し、1 ヶ月、1 週間、1 日単位で評価している。1 日の中で回数が減っているなどの変化を、定性評価として記録する工夫ができるかもしれない。

→（委員）支援手順書については、本人目線か支援者目線かという視点を、時間をかけて学んできたので、スケジュールの提示などのアプローチは今後実施予定。

・　（委員）事業は折り返し地点だが、単純な半分ではなく、後半に向けては前半で培ってきたものが活かされる可能性がある。コアメンバーの負担も大きく、職員同士の意識の違いによる悩ましさもあり、メンタル面でのフォローも考えられればと思う。

・　（委員）具体的な支援方法だけでなく、ゴールは利用者が暮らしやすくなることであり、支援者側の変化がこの1年半で着実に見られている。支援のベースとなる本人特性の理解が支援の常識となりつつある。職員のストレス軽減については取組を考える必要がある。評価表は法人ごとに形が異なり、折れ線より棒グラフが高い部分は強みかもしれないし、逆に低い部分に注目することで課題が見えてくるかもしれない。支援の方向性が見えて支援しやすくなったことについて具体的に教えてほしい。

→（委員）再アセスメントをして、支援者目線から本人目線に変えると乖離があったことに気づいた。一人のケースは、3年間で表出支援ができるように目標を定めた。

→（委員）アセスメントキットを使用したことで、支援者側は言語理解ができていると思っていたが、理解の齟齬や見通しを持てていないことなどが明らかになった。それをきっかけに視覚支援ツールの作成ができた。

・　（部会長）コンサルタントが答えを提示せずに考えを引き出してくれている。今後それを担う側になれるかが課題である。

(2) 実践報告会の開催

2026年2月14日（土）13:30～16:30@堺市立西文化会館

内容案：事業説明（障害施策推進課より）5～10分

基調講演（厚生労働省・山根調整官より）45分

休憩

ケース紹介（参画法人より）20分×3法人

参画法人と山根調整官の意見交換等　35分

〈意見交換・質問等〉

・　（事務局）関わる支援者に届くように、施設部会や自立支援協議会などで周知をする。支援学校などの教育機関へも周知できれば。100人程度が参加できる会場なので対面開催を想定している。

→（委員）その周知方法であれば当事者や家族に届きにくい。また、土曜の午後に当事者が自宅にいるのであればオンラインもあった方が参加しやすいのではないか。

・　（専門的法人）大阪府の実践報告会は咲洲庁舎で実施した。アーカイブ配信はしなかったが、強力なWi-fiがあったので大阪府でオンラインの対応があった。参加者は支援者が大半だった。オンラインは技術的なハードルがあり、特に会場と参加者が意見交換するには、音声面のトラブルも考えられる。

・　（委員）感染症の流行期でもあるのでハイブリット開催がありがたい。

・　（委員）アーカイブ配信にすると好きな時間で見てもらえる。

・　（部会長）基本的には対象者を限定しないが、支援に関する内容が中心となるため、主な対象は支援者になると思う。

2　強度行動障害に関する統計資料の共有　資料２

（事務局）資料２に沿って説明。

3　地域啓発等　今後について　資料３

（事務局）資料３に沿って説明。

〈意見交換〉

- （専門的法人）中核的人材は法人内で活躍するイメージで、広域的支援人材の主な役割は約 3 ヶ月の集中的支援であり、国は専門性の高いアセスメント力とチームアプローチによる組織マネジメントができる人材を求めている。他法人にコンサルテーションができるようになるまで 3 年では難しく、当法人でも 15 年を要した。
- （委員）発達障害者支援センターが広域的支援人材を担うとの話もあったようだが、集中的支援として個別のケースに関わることが困難なので広域的支援人材のバックアップ的な位置づけになっている。堺市として中核的人材と広域的支援人材の中間を目標に進んでいると思う。この事業を継続できる体制を取って定着を図ると次の段階へ進めると思う。児童分野との連携も期待される。
- （委員）児から者への移行においてどのように支援を引き継ぐか等課題もある中で、事業の流れ自体は前向きであるが、家族や当事者に届くまでに時間がかかるため、隙間を埋める工夫が必要。
- （委員）国の動向と堺市独自の取組があるが、現場のニーズに応じた支援を検討する必要がある。
- （委員）事業の成り立ちは、当事者や家族をどう支えるかであった。3 年では厳しいのであれば、今から検討していかないといけない。実践を通じて見えてきた課題も多く、時間をかけるのが良いと思う。
- （委員）大きな 3 法人の動きの背景では、草の根の活動も必要かと思う。
- （委員）国の動向を見守りつつ、一番大事な当事者、家族に届くまで時間がかかるので、最前線の現場でのワークショップなども引き続き考えていければ良い。
- （委員）事業の延長というより SV の支援体制の枠組みや、各事業所の支援力を引き上げる草の根の部分として研修やワークショップなどにフォーカスするのも良いかと思う。また、資料 3 の図は厚生労働省による強度行動障害者の枠組みであり、児童期の支援については子ども家庭庁の所管と分かれている。図では、予防的支援の実施は市町村で実施するよう小さく記載されているが、堺市として、児童発達支援センターや障害児の相談支援部会などとの連携を含めた独自の体制構築を進めてほしい。
- （部会長）延長ではなくどのような形で展開するかが課題であり、SV の支援体制や、地域と共にどう取り組むのか、児童分野との接続についても考える必要がある。教育・児童分野の課題や取組など、検討材料があれば良いと思う。

４ その他

令和 7 年度第 3 回強度行動障害支援部会 開催日程

令和 7 年 12 月 25 日（木）10：00～